

科目名	建築計画Ⅲ						
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	森行 美枝
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。 以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し調査や発表・講評等も行う予定である。						
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築計画とは何かを説明できる	
		○				既存の建築計画を調査・研究している	
		○				これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス4-1生活圏とコミュニティ施設					
	2	4-2図書館 図書館の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	4-2図書館 公共図書館の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	4-2図書館 地域図書館の計画、近代建築史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	4-3美術館 美術館の計画・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	4-3美術館 美術館の計画・各室計画の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	4-4コミュニティーセンター、公民館				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。	
	8	4-5確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	5-1高齢社会と建築計画 5-2病院 病院の誕生				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	5-2病院 病院の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	5-2病院 各室の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	14	5-3確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
15	総括				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする		
評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	課題・プレゼンテーション	○	◎				10%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築構造力学Ⅱ										
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅱ										
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	古賀 俊光			
実施年度	2023年度			実施時期	前期		担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年										
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となる。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要である。この授業では、構造力学の基本となる力の考え方を身につける。										
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				応力を算出することができる。					
	○	○				3ヒンジラーメンの反力・応力を計算することができる。					
	○	○				トラスの軸力を図解法で算出することが出来る。					
	○	○				トラスの軸力を切断法で算出することが出来る。					
	○	○				トラスの軸力を節点法で算出することが出来る。					
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	力学Ⅰの復習									
	2	片持ち梁の応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	張出し梁の応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	単純ラーメンの応力(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	単純ラーメンの応力(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	単純ラーメンの応力 ・ 確認試験1					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	7	片持ち梁系ラーメンの応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	8	3ヒンジラーメン系の反力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	3ヒンジラーメン系の応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	応力図すべての確認試験2					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	11	トラス1(図解法)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	12	トラス2(切断法)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	トラス3(節点法)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	14	トラス ・ 確認試験3					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	15	力学Ⅱの総まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
						言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験					○	◎				40%
	小テスト					◎	◎				40%
	宿題・レポート					○	◎				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない										

科目名	建築施工Ⅱ						
科目名(英)	Building ConstructionⅡ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	集路 正巳
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	既に学んだ施工Ⅰに続き、建築工事を構成する各工種について、鉄骨工事以降の内容について概要を理解する。また、設備工事や建物完成後の業務に関しても理解を深める。						
授業形態	講義：○		演習：△		実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○	○				建築施工の目的と概略を説明できる	
	○	○				施工計画の概要と留意事項を説明できる	
	○	○				施工における工事の内容と留意事項を説明できる	
	○	○				施工における必要な検査事項と活用方法を工事の段階ごとに説明できる	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	鉄骨工事(概要、工場製作①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	鉄骨工事(工場製作②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	鉄骨工事(工場製作③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	鉄骨工事(工場製作④、現場施工①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	鉄骨工事(現場施工②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	鉄骨工事(現場施工③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	鉄骨工事のまとめ、小テスト①				授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと	
	8	屋根工事、防水・シーリング工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	仕上工事の考え方、左官工事、タイル工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	石工事、建具・ガラス工事、金属工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	内装工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	塗装・吹付工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	設備工事(電気、給排水・衛生、空調)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	設備工事(昇降機設備工事)、完成時・完成後の管理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	小テスト②、期末試験対策				授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 小テスト(筆記)を2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト	○	◎				30%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築法規 Ⅲ										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		永田 将大		
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験		住宅メーカーにて 営業・企画設計を担当		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年										
授業概要	建築物の設計、施工に必要な不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る										
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。					
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。					
	○	○				建築法規の規定事項を学び、関連法令と合わせた順守すべき事項を説明することができる。					
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。					
テキスト・教材 参考図書	・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	高さ制限 1					事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	2	高さ制限 2					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	3	高さ制限 3、日影					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	4	内装制限 1					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	5	内装制限 2					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	6	防火区画等①					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	7	防火区画等②					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	8	避難施設 1 (避難施設が必要な建築物)					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	9	避難施設 2 (避難階段と特別避難階段)					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	10	避難施設 3					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	11	その他の法令 1 (建築士法)					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	12	その他の法令 2 (建築士法、建設業法)					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	13	その他の法令 3 (バリアフリー法、耐震改修法)					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	14	その他の法令 4 (品確法、長期優良住宅)					次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	15	その他の法令 5 (消防法)					定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。				
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する (2) 授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験	○		◎							80%
	小テスト	○		◎							20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない										

科目名	建築士対策(製図Ⅰ)						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	中島 潤
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	建築設計事務所にて設計を担当
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	建物の概要は設計図で表現される。そのため設計図を正しく読み取る力および正確に表現することが求められる。本授業では、製図道具の使い方、線の描き方など製図の書き方を習得し、木造建築物の一般図の種類と表現方法・内容理解を目指す。						
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる	
		○				木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。	
		○	○			2級建築士2次試験の対策に向け過去問を通して理解する	
テキスト・教材 参考図書	2級建築士試験 設計製図テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	製図のスキル確認				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	2	製図用具の説明				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	3	線の練習				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	4	文字の練習・建具記号・表現				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	5	2級建築士国家試験問題①：木造2階建住宅(1)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	6	2級建築士国家試験問題①：木造2階建住宅(2)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	7	2級建築士国家試験問題①：木造2階建住宅(3)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	8	2級建築士国家試験問題①：木造2階建住宅(4)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	9	2級建築士国家試験問題①：木造2階建住宅(5)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	10	2級建築士国家試験問題②：木造2階建住宅(6)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	11	2級建築士国家試験問題②：木造2階建住宅(7)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	12	2級建築士国家試験問題②：木造2階建住宅(8)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	13	2級建築士国家試験問題②：木造2階建住宅(9)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	14	2級建築士国家試験問題②：木造2階建住宅(10)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	15	2級建築士国家試験問題②：木造2階建住宅(11)				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○	○			10%
	課題作品		○	○			20%
	提出状況		○	○			70%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	検定対策ゼミA(選択)2級建築施工管理技士資格試験											
科目名(英)												
単位数	4単位			時間数		60時間		担当者		集路 正巳		
実施年度	2023年度			実施時期		前期		担当者実務経験		総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年											
授業概要	2施工_学科試験合格を視野に、問題読解に必要な知識をポイントを絞り身につけていきます。また、理解度確認のため小テスト、模擬テストを複数回、実施し実力をつけていきます。											
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				建築施工に関する専門用語の意味を正しく説明できる。						
	○	○				小テストの平均正解率60%以上を獲得できる。						
	○	○				模擬テストの平均正解率60%以上を獲得できる。						
テキスト・教材 参考図書	①. 2級建築施工管理技士要点テキスト(2021年度版)市ヶ谷出版社 ②. 2級建築施工管理技士即戦問題集 (2021年度版)市ヶ谷出版社											
授業計画	回数	授業項目・内容					回数	授業項目・内容				
	1	1章 建築学 01 環境工学					16	16 安全管理 / 小テスト④				
	2	02 構造力学					17	5章 建築施工 17 地盤調査				
	3	03 一般構造					18	18 仮設工事				
	4	04 建築材料 / 小テスト①					19	19 地業				
	5	2章 共通 05 舗装・植栽工事					20	20 土工事				
	6	06 建築設備					21	21 鉄筋コンクリート工事				
	7	07 設計図書・測量 / 小テスト②					22	22 特殊コンクリート工事 / 小テスト⑤				
	8	3章 建築法規 08 建築基準法					23	23 鉄骨工事				
	9	09 建設業法					24	24 木工事				
	10	10 労働基準法					25	25 防水工事、石工事				
	11	11 労働安全衛生法					26	26 タイル工事、屋根工事				
	12	12 環境保全関係法、その他 / 小テスト③					27	27 金属工事、左官工事				
	13	4章 施工管理法 13 施工計画					28	28 建具工事、塗装工事				
	14	14 工程管理					29	29 内外装工事、建設機械 / 小テスト⑥				
	15	15 品質管理					30	総まとめ / 模擬テスト				
	授業外学修指示											
	・当日の授業範囲に係るテキストの該当部分を事前に読んでおく事。特に専門用語を理解しておく。											
評価方法	(1) 模擬テスト(筆記)を実施する。(2) 小テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		
	模擬テスト	○		◎						70%		
	小テスト	○		◎						30%		
履修上の注意	出席数が全体の2/3に満たない場合には、単位を与えない。またゼミ受講に対する意欲が感じられないと判断した場合は、ゼミへの出席停止を指示し単位を与えない事がある。											

科目名	検定対策ゼミA(選択)インテリアコーディネーター										
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ										
単位数	4単位			時間数	60時間		担当者	赤星 亜美			
実施年度	2023年度			実施時期	前期		担当者実務経験	オーダー家具制作会社でインテリアコーディネーターとして勤務			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年										
授業概要	インテリア産業協会主催インテリアコーディネーター検定対策の学習を通して、建築概要とインテリアコーディネーター知識のより専門的な知識の習得を図る										
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○					インテリアの歴史について説明することができる					
	○					家具の特徴を理解し説明できる。					
	○					消費者関連法規の重要事項・留意事項を把握しており、説明できる					
	○					インテリアエレメントの特徴を説明することができる					
	○					インテリアコーディネーター一次試験の合格基準点をとることができる					
テキスト・教材 参考図書	テキスト：インテリアコーディネーター合格教本(上・下) インテリアコーディネーター問題集(上・下) その他										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	ガイダンス/資格概要					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	2	1章 住宅と社会/2章 インテリア販売					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	3	9章 構造・構法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	4	3章 インテリアの歴史					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	5	10章 材料					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	6	3章 インテリアの歴史					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	7	10章 材料					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	8	4章 インテリア計画					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	9	11章 環境工学					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	10	5章 色彩と造形					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	11	11章 環境工学/12章 住宅設備					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	12	6章 家具					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	13	12章 住宅設備/13章 照明					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	14	6章 家具					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	15	13章 照明/14章 表現技法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	16	7章 ウィンドウトリートメント					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	17	15章 建築関連法規					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	18	8章 各種エレメント					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	19	16章 消費者関連法規					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	20	模擬試験					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	21	模擬試験					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
22	模擬試験					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと					

	23	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	24	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	25	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	26	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	27	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	28	模擬試験	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	29	模擬試験	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	30	模擬試験	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
評価方法	(1)小テストを各章が修了した次の授業で実施する。(2)20回目から宿題あり。(3)全国模試を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	全国模試	○					50%
	小テスト	○					25%
	宿題	○					25%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	検定対策ゼミA(選択)宅地建物取引士試験											
科目名(英)												
単位数	4単位			時間数		60時間		担当者		森行 美枝		
実施年度	2023年度			実施時期		前期		担当者実務経験		建築設計事務所にて設計・監理業務担当		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年											
授業概要	宅建試験の合格も視野に、試験の問題演習を通して、建築物を取引する不動産権利取引に関する知識を修得する。それにより、建築物の財産的価値の重要性を認識できる視点を養う。											
授業形態	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				宅建業の業務内容と役割について宅建業法の条文規定を用いて説明できる						
	○	○				宅地建物取引士の実務における重要事項を条文規定を用いて説明できる						
	○	○				民法の権利義務関係について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことができる						
	○	○				不動産取引手続きに関する問題について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%を出すことができる						
テキスト・教材 参考図書	出る順 宅建士 ウォーク問過去問題集2018年版①～③ 【東京リーガルマインド】											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	用語の定義／免許制度／宅建士制度						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	2	営業保証金／保証協会／媒介契約等の規制						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	3	重要事項の説明／37条書面						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	4	8種制限／業務上の諸規制／監督・罰則						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	5	報酬／住宅瑕疵担保履行法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	6	単元テスト						正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	7	制限行為能力者／意思表示／代理						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	8	時効／不動産物権変動／物権関係						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	9	抵当権／保証・連帯保証／連帯債務						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	10	債権譲渡／債務不履行と解除／弁済・相殺／売買						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	11	賃貸借／委任・請負／不法行為						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	12	相続						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	13	借地借家法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	14	借地借家法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	15	区分所有法／不動産登記法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	16	単元テスト						正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	17	都市計画／開発許可制度						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	18	建築基準法(単体規定・集団規定)／宅地造成等規制法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	19	土地区画整理法／農地法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	20	国土利用計画法／諸法例						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	21	国土利用計画法／諸法例						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	22	単元テスト						正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				

	23	不動産取得税／固定資産税	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	24	不動産譲渡所得／登録免許税／印紙税／贈与税	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	25	地価公示法／不動産鑑定評価基準	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	26	住宅金融支援機構／景品表示法	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	27	土地／建物／統計	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	28	単元テスト	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	29	全国模擬試験①	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	30	全国模擬試験②	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
評価方法	(1)単元テスト(2)模擬試験の点数で評価する 成績評価基準は、平均正答率 S(90%以上)・A(80%以上)・B(70%以上)・C(60%以上)・D(59%以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	単元テスト	○	○				50%
	模擬試験	○	○				50%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	CAD演習 II A						
科目名(英)	CAD practice II A						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	西尾 英士	
実施年度	2023年度		実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所で、インテリア設計・デザイン、CGパースに従事	
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	AutoCADの基本操作を学び、建築図面の作図方法を理解し、実務において効率的な設計や作図ができるようになる方法とコマンドの使い方を学習する。正しい図面の表記を学びながら作図を実践し、即戦力として活躍できるための技術を身につける。						
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。	
	○	○	○			用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールを理解して作図することができる。	
	○	○	○			木造住宅の各種図面(平面・断面・立面)を作図できる	
		○	○			自ら用途に応じてAutoCADの各種設定を行うことができる。	
	○	○	○			自ら用途に応じてAutoCADの各種設定を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト：オリジナルプリント 参考図書：超入門 建築製図(市ヶ谷出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習-1				練習問題を繰り返し練習 データ提出	
	2	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習-2				練習問題を繰り返し練習 データ提出	
	3	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習-3				練習問題を繰り返し練習 データ提出	
	4	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習-4				練習問題を繰り返し練習 データ提出	
	5	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習-5				練習問題を繰り返し練習 データ提出	
	6	【木造住宅意匠図】配置図兼平面図				授業内容の復習	
	7	【木造住宅意匠図】配置図兼平面図				授業内容の復習	
	8	【木造住宅意匠図】配置図兼平面図				授業内容の復習	
	9	【木造住宅意匠図】配置図兼平面図				授業内容の復習	
	10	【木造住宅意匠図】屋根伏図				授業内容の復習	
	11	【木造住宅意匠図】レイアウト空間設定・印刷				授業内容の復習 データ提出	
	12	【木造住宅意匠図】断面図				授業内容の復習	
	13	【木造住宅意匠図】断面図				授業内容の復習	
	14	【木造住宅意匠図】立面図				授業内容の復習	
	15	【木造住宅意匠図】立面図・レイアウト空間設定・印刷				授業内容の復習 データ提出	
評価方法	(1)練習問題を実施する。(2)指定された課題を実施し、提出する。 (3)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	練習問題	○□	○□	○□			
	課題提出状況		◎	◎			
	習熟度(スピードと正確さ)	○□	◎	◎			
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	CG演習ⅡA							
科目名(英)	CG exerciseⅡA							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	西尾 英士	
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	設計事務所で、インテリア設計・デザイン,CGパースに従事	
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年							
授業概要	業界内ではデザインを他者へ伝えるスキルが必要不可欠。 2D、3DCGソフトを用いてオリジナルのインテリアデザインを表現するための技術習得を目指す。							
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○				オリジナルの家具のデザインができる		
		○				3DCGソフトを使ってオリジナル家具/インテリアの表現ができる		
		○				オリジナル家具/インテリアのプレゼンボードの制作ができる		
テキスト・教材 参考図書	・『世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書』ピクセルハウス(著) 技術評論社 ・オリジナルテキスト							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	家具のモデリング練習_1					課題内容を把握	
	2							
	3	家具のモデリング練習_2					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	4							
	5	課題①:3DCGソフトを使ってオリジナル家具を表現_1					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	6							
	7	課題①:3DCGソフトを使ってオリジナル家具を表現_2					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	8							
	9	課題①:3DCGソフトを使ってオリジナル家具を表現_3					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	10							
	11	課題①:オリジナル家具のプレゼンボード作成_1					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	12							
	13	課題①:オリジナル家具のプレゼンボード作成_2					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	14							
	15	課題②:3DCGソフトを使ってオリジナルのインテリアを計画_1					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	16							
	17	課題②:3DCGソフトを使ってオリジナルのインテリアを計画_2					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	18							
	19	課題②:3DCGソフトを使ってオリジナルのインテリアを計画_3					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
20								
21	課題②:3DCGソフトを使ってオリジナルのインテリアを計画_4					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
22								
23	課題②:3DCGソフトを使ってオリジナルのインテリアを計画_5					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
24								
25	課題②:3DCGソフトを使ってオリジナルのインテリアを計画_6					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
26								
27	課題②:オリジナルインテリア計画のプレゼンボード作成_1					授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
28								
29	課題②:オリジナルインテリア計画のプレゼンボード作成_2							
30								
評価方法	各テーマ作成課題を評価対象成果物として評価:7種実施、その提出により評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題①			◎				50%
	課題②			◎				50%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない							

科目名	インテリアコーディネーションⅡ							
科目名(英)	interior coordination							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	工藤 有紀	
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	ハウスメーカーでインテリアコーディネーターとして勤務	
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年							
授業概要	インテリアコーディネーションⅠで既に習得した基本知識と1年次に学んだ実習を通して、店舗プランを時流に根差したコーディネートセンス習得を目指す。また、表現手法としてデジタル、アナログ双方の技術習得を図る。							
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				インテリアに関する画像情報を常に自ら収集しかつ系統別に整理しプランニングに活用することが出来る。		
	○	○				時流に即した店舗計画、コーディネートボードを制作することが出来る。		
	○	○	○			第三者に自信をもって分かりやすくプレゼンテーションができる		
テキスト・教材 参考図書	配布プリント、スチレンボード、プラ板、ボンド、バルサ材等 ※プレゼン内容による							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	ガイダンス						
	2	住宅と店舗					配布プリントにて復習をすること	
	3	飲食店					配布プリントにて復習をすること	
	4	アパレルショップ・美容室					配布プリントにて復習をすること	
	5	クリニック受付・本屋 ほか					配布プリントにて復習をすること	
	6	プレゼンテーションボード・マテリアルボード等作成					授業内で終了出来なかった場合宿題	
	7	プレゼンテーションボード・マテリアルボード等作成					授業内で終了出来なかった場合宿題	
	8	プレゼンテーションボード・マテリアルボード等作成					授業内で終了出来なかった場合宿題	
	9	プレゼンテーションボード・マテリアルボード等作成					授業内で終了出来なかった場合宿題	
	10	プレゼンテーションボード・マテリアルボード等作成					授業内で終了出来なかった場合宿題	
	11	プレゼンテーションボード・マテリアルボード等作成					授業内で終了出来なかった場合宿題	
	12	プレゼンテーション準備					授業内で終了出来なかった場合宿題	
	13	プレゼンテーション準備					授業内で終了出来なかった場合宿題	
	14	発表(PowerPoint) 全員						
	15	発表(PowerPoint) 全員						
評価方法	(1)定期試験(筆記)は実施しない。 (2)宿題・レポート、実習作品を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	制作作品	○	○	○			70%	
	期日厳守	○	○				30%	
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない							

科目名	インテリア設計									
科目名(英)										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		赤星 亜美	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年									
授業概要	1年次に修得した建築やインテリアデザインの知識、技術、センスを活かし、平面計画から模型製作まで実施する。共通テーマからブレのないコンセプト、平面計画、インテリア配置を熟考した上、インテリアのデザインコンセプトを確定し、家具、什器類のスケッチ及び内装部分まで表現した模型を製作することで理解度を高める。									
授業形態	講義：		演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○				本学におけるこれまでの学習の成果が身についている。				
		○				コンセプトに沿った確かな計画を組み立てることができる				
		○				模型製作から、実務に通用するレベルの集中力、洞察力、表現力を身に付けることができる				
テキスト・教材 参考図書	スチレンボード、プラ板、ボンド、バルサ材等 ※別紙参照									
授業計画	回数		授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	2	マンションリフォーム計画				締切を確認し計画的に進めてください。			
	3	4	マンションリフォーム計画				締切を確認し計画的に進めてください。			
	5	6	マンションリフォーム計画				締切を確認し計画的に進めてください。			
	7	8	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	9	10	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	11	12	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	13	14	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	15	16	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	17	18	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	19	20	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	21	22	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	23	24	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	25	26	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	27	28	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。			
	29	30	模型製作・提出				締切を確認し計画的に進めてください。			
評価方法	(1)出課題作品の完成度 (2)段階的な作品の提出状況 (3)プレゼンテーションの出来栄によって評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題作品			◎				80%		
	提出状況			◎				20%		
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない									

科目名	専攻ゼミ I（インテリア）						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	工藤 有紀
実施年度	2023年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	ハウスメーカーでインテリア コーディネーターとして勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	近年、建築・プロダクト・グラフィック等のクリエイターの要件として作品そのものの設計力に留まらず、「表現力」すなわちプレゼンテーションの技量による共感性の惹き出しが重要視されており、インテリアデザインの世界においても例外ではない。そこで、コンペティションへ出展することで、これまでの授業で培ってきたスキルに加え、更に効果の高い表現技術の習得を目標とする。						
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				プレゼンテーションを説得性の高いビジュアルとして構成することが出来る。	
	○	○				作品の説明を手順を踏まえ、共感性の高い口頭表現で発表することが出来る。	
		○				CAD、レンダリング等、時流に合わせたデジタル表現またはパース、着色等での訴求方法を習得している。	
テキスト・教材 参考図書	プリント配布等						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス・コンペ参加について・テーマ、コンセプト設定・検討				これまでの自己の学業知見を振り返り方向性を考えておくこと	
	2	計画案(テーマ、コンセプト、色彩計画、図面等)検討・イメージ写真収集・調査				授業時間外でも毎日、調査、検討していくこと	
	3	計画案(テーマ、コンセプト、色彩計画、図面等)検討・イメージ写真収集・調査				授業時間外でも毎日、調査、検討していくこと	
	4	計画案(テーマ、コンセプト、色彩計画、図面等)検討・イメージ写真収集・調査				授業時間外でも毎日、調査、検討していくこと	
	5	計画案(コンセプト、色彩計画、CADにて作図等)作成				授業内で終了出来なかった場合次回までに考えておくこと	
	6	計画案(コンセプト、色彩計画、CADにて作図等)作成				授業内で終了出来なかった場合宿題	
	7	発表(PowerPoint) 選抜者3～5名 5分程度				他の学生の作品を確認、分析する	
	8	作品仕上げ(コンセプト、図面、3DCAD・スケッチ、説明文等)				授業内で終了出来なかった場合宿題	
	9	作品仕上げ(コンセプト、図面、3DCAD・スケッチ、説明文等)				授業内で終了出来なかった場合宿題	
	10	作品仕上げ(コンセプト、図面、3DCAD・スケッチ、説明文等)				授業内で終了出来なかった場合宿題	
	11	作品仕上げ(コンセプト、図面、3DCAD・スケッチ、説明文等)				授業内で終了出来なかった場合宿題	
	12	作品仕上げ(レイアウト、説明文等)				授業内で終了出来なかった場合宿題	
	13	作品仕上げ(レイアウト、説明文等)				授業内で終了出来なかった場合宿題	
	14	作品仕上げ(レイアウト、説明文等)				授業内で終了出来なかった場合宿題	
	15	発表2(PowerPoint) 選抜者3～5名 5分程度/最終成果物提出				他の学生の作品を確認、分析する	
評価方法	最終成果物である制作作品において、評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出期限		○				30%
	制作課題		◎	◎			70%
履修上の注意	必要出席率は成績評価に関する規定(履修認定)第9条の通りとする。 宿題・レポートを合わせて2つ以上未提出、または実習作品を未提出の者は不合格とする。						

科目名	ビジネスマナーⅡ						
科目名(英)	Business manner						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	津嘉山 佳子
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	専門学校にて、ビジネスマナー教員として勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客対応、電話対応、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。						
授業形態	講義： ○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
					○	サービス接遇検定3	
	○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。	
		○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。	
		○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する	
				○		基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 ・早稲田教育出版 サービス接遇検定3級 実問題集第39回～43回						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	検定試験について 受験級の選択・検定結果について					
	2	サービス接遇検定対策① 演習および解説 第39回					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	3	サービス接遇検定対策② 演習および解説 第40回					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	4	サービス接遇検定対策③ 演習および解説 第41回					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	5	サービス接遇検定対策④ 演習および解説 第42回					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	6	サービス接遇検定対策⑤ 模擬試験					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	7	サービス接遇検定対策⑥ 演習および解説 第43回					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	8	サービス接遇検定対策⑦ 演習および解説					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	9	来客応対1 接遇の意義と重要性を理解する 接遇の心構え					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	10	来客応対2 来客対応の流れ 来客対応の基本用語					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	11	来客応対3 名刺の受け方・渡し方・取扱い					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	12	来客応対4 ロールプレイング テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	13	電話応対1 電話の特性 電話話法のポイント					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	14	電話応対2 電話のかけ方・受け方 演習プリント					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	15	学習のまとめ ― 今期学んだことの復習、理解を深める					定期試験に備えて、復習をしておくこと
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				75%
	ロールプレイングテスト	○	○				15%
	態度・意欲				○	○	10%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	就職実務ⅡA						
科目名(英)	Employment practicesⅡA						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	各クラス担任
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 就職活動における作品集作成や履歴書記入方法など、社会人になる上でのスキルを身につける。						
授業形態	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				就職活動における企業研究が行うことができる	
	○	○				自己分析を行うことができる	
	○	○				作品集を作成し就職活動ができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	履歴書の書き方					
	2	受験企業の研究し求人を探しリストアップ					
	3	自己分析作成と作品集ブラッシュアップ					
	4	志望理由チェックと作品集ブラッシュアップ					
	5	就職活動スケジュールを制作					
	6	就職活動状況の共有					
	7	ポートフォリオのブラッシュアップ					
	8	対象企業を意識した面接練習					
	9	対象企業を意識した面接練習(グループディスカッション)					
	10	受験企業の研究し求人を探しリストアップ					
	11	自己分析や志望理由チェック					
	12	就職活動状況の共有					
	13	求人情報の集め方や、管理の仕方					
	14	対象企業を意識した面接練習					
	15	就職活動スケジュールを制作					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	キャリア教育(選択)									
科目名(英)										
単位	2単位		時間数		30時間		担当者		各クラス担任	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年									
授業概要	企業が求める人材を把握し、就職活動を円滑に進めるための意識付けと、求職票・履歴書の具体的な書き方や面接対策など、そのまま就職活動に活かせる実践的な演習を中心に授業を進めていく									
授業形態	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				自己分析を基に、自己PRをまとめることができる				
	○	○				企業の目線を意識した志望動機を書くことができる				
	○	○				面接時の基本的なマナーが身につく、問題なくふるまうことができる				
	○	○				面接官の質問に対し、問題なく受け答えができる				
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	就職活動のための準備 ガイダンス								
	2	求職票の書き方 「自己PR」の書き方					自己の強みと弱みについて自分なりに自己分析しておくこと			
	3	求職票記入 下書き・添削								
	4	履歴書の書き方 「学生時代に力を入れたこと」「志望動機」など					自己の学生時代の経験、また希望企業への志望動機を自分なりに考えておくこと			
	5	求職票受付面接について 概要説明								
	6	求職票受付面接練習 入退室・立ち居振る舞い・おじぎ					授業内で学習したマナーは日常生活の中でも意識して行うこと			
	7	求職票受付面接練習 面接官の視点・第一印象について								
	8	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方 ①								
	9	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方 ②								
	10	求職票受付面接練習 通しで実践練習								
	11	求職票受付面接練習 通しで実践練習								
	12	求職票受付面接練習 通しで実践練習								
	13	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加					参加する企業について、事業内容、事業規模等事前に調べておくこと			
	14	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加								
15	いろいろな報告書の書き方 ビジネス文書の作成					学んだ文書の書き方について復習しておくこと				
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	受講態度・意欲		○	○				30%		
	課題の提出		○	○				70%		
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない									

科目名	数学ゼミⅡA(選択)									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	吉田 麻美			
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年									
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す									
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△				
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				1次関数の値の変化をグラフに表すことができる				
	○	○				1次関数と方程式の問題が解ける				
	○	○				1次関数の応用問題が解ける				
	○	○				図形の性質と合同性質を用いた問題が解ける				
	○	○				証明問題を解くことができる				
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	【演習問題】 1次関数 値の変化、変化の割合				解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。				
	2	【演習問題】 1次関数 1次関数のグラフ問題								
	3	【演習問題】 1次関数 1次関数のグラフのかき方・式の求め方								
	4	【演習問題】 1次関数 1次関数と方程式(連立方程式)								
	5	【演習問題】 1次関数の利用 文章問題 まとめ								
	6	【演習問題】 図形の性質と合同 直線と角、三角形と角、多角形の角								
	7	【演習問題】 図形の性質と合同 三角形の合同								
	8	【演習問題】 図形の性質と合同 証明問題								
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	受講態度・意欲	○	○				30%			
	課題の提出	○	○				70%			
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない									

科目名	BIM専攻ⅡA(選択)						
科目名(英)	Building Information ModelingⅢA						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	道脇 力
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	建築設計会社にて設計担当
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	・ARCHICADのチームワーク操作の習得。 ・課題の制作を通じた実践的な表現技術の習得。						
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				チームワーク機能を効果的に活用してモデリングを行うことができる。	
	○	○				課題に必要な情報収集を行うことができる。	
		○	○			ゾーンツールを使ってボリュームスタディができる。	
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	チームワークの概要、モデル入力「木造軸組①」				テキストを見て予習を行うこと	
	2	モデル入力「木造軸組②」データチェック				前回の復習を行うこと	
	3	課題:複合ビル「情報収集」				情報、資料収集を行うこと	
	4	課題:複合ビル「エスキス①」				情報、資料収集を行うこと	
	5	課題:複合ビル「エスキス②」				情報、資料収集を行うこと	
	6	課題:複合ビル「エスキス③」				情報、資料収集を行うこと	
	7	課題:複合ビル「制作①」				情報、資料収集を行うこと	
	8	課題:複合ビル「制作②」				情報、資料収集を行うこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)発表・作品 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品	○	◎				50%
	課題提出		◎	○			50%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						